



# Caritas Kaleidoscope

カリタス女子短期大学

英語・英語圏文化専攻

Vol. 10

## British Hills in 2003

英語・英語圏文化専攻 教員

北川宣子、前田隆子



英語・英語圏文化専攻の1年生は、毎年6月上旬に福島県の羽鳥湖のそばにあるブリティッシュ・ヒルズ(以下 B.H.)を利用して異文化体験学習を行います。ここでは、12世紀から18世紀の中世英国の建築様式を再現して建てられたゲストハウスに宿泊することができます。そのような素晴らしい施設で、今年は6月5日～6日の1泊2日で「英語生活」を送りました。

B.H.に到着し、まずオリエンテーションを受け、その後5つのグループに分かれて、英語で授業を受けました。今年は、**Cooking**(スコーン作り)、**Aromatherapy**(いろいろなエッセンシャルオイルやハーブの基本的な効用を学びながらのバスソルト作り)、**3-D Card**(3次元の絵のように浮き上がった紙細工のテクニックを学ぶ)、**Calligraphy**(カリグラフィーとはギリシャ語で「美しい書体」という意味。いろいろなアルファベットの様々な字体の基本を学ぶ)、**Batik**(ろうけつ染の一種で自分の好きなデザインを、ロウを使ってTシャツの上書き、色水につける動作を繰り返す)の5クラスでした。どのクラスも楽しみながら英語に触れた上に、それぞれ作品まで手に出来、学生たちは全員満足した様子でした。



夜には、テーブルマナーについて英語で講義を受けた後、正装して英国式フォーマルディナーをフルコースでいただきました。食後には、昨年も大好評だったスコットランド出身の講師による **Scottish Dance** 教室が開かれ、多くの学生たちが gym でスコットランドの音楽に合わせて、様々なダンスに挑戦しました。またそれ以外にも、スヌーカー(英国式ビリヤード)を楽しんだり、バブでスタッフとの英会話を楽しんだり、部屋で友人と語り合ったり、と思いいいに過ごしたようです。

翌日は、フランスス・マッカーシー先生とパトリシア保田先生によるスコットランド民謡や英語の歌、ダンスの授業がありました。その後昼食を取り、皆名残惜しそうに B.H. を去りました。

最後に学生たちの言葉でこの2日間の体験を振り返ってみましょう。

本当にイギリスにいるように感じ、いろいろなところを歩いているだけで面白かった。

英語でのレッスンがとても楽しかった。

外国人と積極的に話ができ満足。

イギリスの文化を知り、生活を体験できてうれしかった。

夜の **Scottish Dance** 教室がとても楽しかった。

このように多くの学生が格別の思い出を作ることができたようです。B.H.での『擬似留学』を通して、一人ひとりがこれからも一層真剣に英語学習に取り組むよう、また夏の海外研修に参加する学生にとっては心の準備ともなったことを、切に願います。



# 英米文学の故郷

## 第9回 チョートン

英語・英語圏文化専攻 教員

伊藤 知子



ジェイン・オースティン(Jane Austen, 1775-1817)は、イギリス19世紀初期の代表的な女流作家です。主要作品は長編小説6編であり、ヒロインを中心とする人間関係に焦点を合わせて、中流階級の人々の日常生活と心理を正確に描写しています。彼女自身は生涯独身でしたが、何度か恋愛経験があり、プロポーズされたこともあります。小説においてはヒロインが結婚に至るまでの過程における自己発見や成長をテーマにしており、オースティンが女性の生き方について思索を続けていたことが分かります。



**ジェイン・オースティン** オースティンはイングランド南部に位置するハンプシャー州(Hampshire)の村ステューヴントン(Steventon)で牧師の娘として生まれました。彼女は美しい自然に囲まれたステューヴントンでの生活を気に入っていました。1801年にイングランド南西部のエイヴオン州(Avon)の小都市バース(Bath)に転居します。社交場としてのバースでの生活は彼女の見聞を広め、多くの小説においてバースに言及しています。

1809年からハンプシャー州の村チョートン(Chawton)に住むこととなります。彼女の家は現在ジェイン・オースティンズ・ハウス(Jane Austen's House)と呼ばれる文学館になっており、様々な資料が収められています。彼女が使った家具やアクセサリーに加えて、当時の女性たちの衣装も展



ジェイン・オースティンの家

示されています。ジェイン・オースティンズ・ハウスの庭はずばらしく、私が訪れた1996年の7月には色とりどりの夏の花が咲いていました。1817年5月にオースティンは病気治療の為にチョートンの南西にある州都ウィンチェスター(Winchester)に移り、同年7月に41歳で亡くなります。彼女はウィンチェスター大聖堂(Winchester Cathedral)の北側の身廊に埋葬されています。

近年、『高慢と偏見』(*Pride and Prejudice*, 1813)、『エマ』(*Emma*, 1816)、『分別と多感』(*Sense and Sensibility*, 1811)など多くの小説がドラマ化や映画化されて話題になったのは、彼女がその機知と洞察力で普遍的な人間性を描き出しているからでしょう。

# 聖書の英語

英語・英語圏文化専攻 教員

浦野 洋司

## “Sitting next to Jesus” or 「イエスの胸に寄り添う」

### ---- 「最後の晩餐」で彼らは椅子に座ったのか、寝そべったのか? ----

「最後の晩餐」というと、レオナルド・ダ・ビンチの絵があまりにも有名です。ヨハネによる福音書の13章23節、“One of the disciples, the one whom Jesus loved, was sitting next to Jesus.” の「イエスのとなりに座っていた」を、最近「イエスの胸に寄り添っていた」とする訳が出ました。この訳は椅子スタイルではどうもつじつまが合いません。レオナルドの中世ヨーロッパ解釈も、英語などの現代訳も総て椅子と机の西欧スタイルです。

問題の言葉はギリシア語のコルボス(ヘブライ語はシェク)で、元のテキストに「座る」の動詞はありません。「イエスのコルボスにいた」が直訳です。コルボスもシェクも愛する子供や小動物が親や人に迎えられ、抱えられ、ぬくもりや愛情を体験する場所、つまり、胸、腹、下腹部、太股や膝を、更には、胎、生殖器も意味します(bosom, lap, womb, genitaliaなど)。ヨハネ1章18節“No one has ever seen God. The only Son, who is the same as God and is at the Father's side, he has made him known.”のアンダーライン部、「(父の)ふところ」も同じコルボスです。

最後の晩餐がより明らかになる当時の食事の実像は、ルカによる福音書7章38節、罪の女が食卓のイエスに近づく話で分かります。”(she) stood behind Jesus, by his feet, crying and wetting his feet with her tears.”椅子に座って「イエスの後ろ、足元に立つ」の意味が分かります。要する明らかなのは足を投げ出し、横になって食事をしていたということなのです。

レオナルドの作品は確かにすばらしいもの、そして椅子と机での食事は今や当たり前です。ただ、残念なのは、この理解は聖書と違うだけでなく、「ふところ」に抱かれる情味豊かな部分、そこに秘められている親愛の情や暖かさが消えてしまうということです。

# Student life in Australia

英語・英語圏文化専攻 教員

This time our interview is with Sei Matsushita who graduated in 2002 and is now studying at the University of Southern Queensland in Australia.

Patricia Yasuda

**Q: Hello Sei. Can you tell us what you have been doing since you graduated from Caritas in 2002?**

**A:** Yes. I have been studying at USQ, a university in Australia, since April 2002. First, I studied intensive English from April to November. After that I took a university preparation course from November to February. I am now about to start a degree course and hope to do Chinese and Multimedia as my majors. In the future I would like to work for an advertising company.

**Q: How are the classes?**

**A:** The English course was very tough to continue everyday because the class ran from 9am to 3pm. In addition to that, most days I had a lot of assignments. Thus I had to read a lot and also write essays. Although studying is very difficult for me, my classmates help me. There are people from many countries in my classes. In my English class, they come from China, Germany, Zimbabwe, Bangladesh, U.A.E, Papua New Guinea. In my core classes, there are many Australians, of course. It is very interesting for me to talk with everyone because we each have our different cultures and we have to learn to respect each other. It is hard for me to get used to people who like to touch and hold hands.

**Q: Are you living on campus?**

**A:** Yes. Now I live in the student village. There are three other students in my house. I live with three Chinese. We share the meals. Every day we cook together. It is very enjoyable for me. Sometimes I cook Japanese food for them such as soba or sushi. Everyone likes it! Most days though, we cook Chinese food. Every weekend we go shopping together to buy the food.

**Q: What do you like best about life at USQ?**

**A:** My favorites in Australia are the Australians themselves because they are so kind and friendly. In particular, the teachers in my school are so nice. Once a month, they provide a BBQ party for international students to help us make friends. I like it. The other thing I love is nature. If we drive about ten minutes, I can see wild wallabies or koalas.

Thank you Sei and we hope you continue to do well in your studies!

## 先生が学生だった頃

このコーナーでは、カリタス女子短大の先生方がどのような学生時代を送ったのか、学生によるインタビュー形式でお届けします。第9回目のゲストは、英語・英語圏文化専攻の北脇実千代先生です。インタビュアーは2年生の大滝裕子さんです。



北脇 実千代先生

**Q: 大学では、何を専攻されていたのですか？**

**A:** アメリカ文化です。中学時代にアメリカのロックやポップス、映画などが好きだったので、その背景にある文化に興味を持ちました。大学では、アメリカの歴史や政治など様々な分野を学ぶことができ、また、卒論で1920年代のフラッパーと呼ばれるアメリカ女性について研究したことがきっかけで、今も研究を続けています。

**Q: アメリカ文化研究を通じて、何か感じたことはありますか？**

**A:** 様々な人種、民族が暮らしているアメリカ文化の多様性を知ると同時に、差別や人種間の摩擦も強く感じました。

**Q: 学生生活はどうでしたか？**

**A:** 毎日、英語の宿題をこなすのが大変でしたが、サークルでバンド活動をしたり、友達とドライブをしたりと楽しく遊んだ思い出もあります。よく学びよく遊べ、という感じですかね...

**Q: 大学院時代に留学経験がおりだそうですが、その時の体験をお聞かせください。**

**A:** ニューヨーク州のバッファローに、二年間留学していました。専攻はアメリカ研究で、当時は黒人女性のおしゃれについて研究していました。授業は、ゼミ形式のものが多く、毎回発言を求められ苦労しましたが、とても良い経験になりました。日本を離れてみて初めて、自分がアジアの一員であることも実感しました。

**Q: フラッパーや女性のおしゃれについてよく研究されているようですが、興味がおありなのですか？**

**A:** おしゃれや洋服をめぐる歴史に興味がありますね。7, 80年前の女性たちがどんな化粧品を使っておしゃれをしていたのだろうとか...

**Q: 色々な事に興味をお持ちのようですが、今最も興味のあることはなんですか？**

**A:** 英語圏以外の映画を見て、その国の文化に触れてみることです。常にいろいろなことに対し心を開き、様々なものに触れて、人生を豊かにしていきたいですね。

**Q: 最後に学生へのメッセージをお願い致します。**

**A:** 人生はいろいろな可能性を秘めているので、決して諦めずに何にでも挑戦して下さい。

# 太平洋を越えた人と文化

英語・英語圏文化専攻 教員  
北脇 実千代



近年、日本に住む多くの人々が海を越えて外国へと行く機会が多くなりました。また、人の移動に加えて、文化も海を越えています。例えば、マクドナルドでハンバーガーを食べたり、ハリウッド映画を見たりなど、アメリカ文化はすでに私たちの生活の一部となっています。同じように、アメリカで暮らす人々も、寿司を食べたり、テレビで「ポケモン」を見たりと日本文化に触れるようになってきました。このコーナーでは、このように太平洋を越えて国と国とをまたぐ人や文化のトランスナショナルな動きを様々な角度からみていきます。

第一回は、昨年秋に横浜みなとみらい21に海外移住資料館(JICA 横浜国際センター2階)がオープンしたことにちなんで、日系人に焦点を当ててみます。明治時代より、多くの日本人が太平洋を越えて外国へと移住しました。まさに人のトランスナショナルな動きです。行き先は、アメリカ、カナダ、ブラジル、ペルーなど北米や中南米の国々でした。資料館では、日本から海外へ移住した人々の様子を、生活用品などの展示物や写真・映像を通して詳しく知ることができます。

現在、海外へ移住した日本人の子孫である日系人たちも、自分たちの祖先の歴史を記憶に残すため、資料館を各地で建設しています。アメリカで最大のもので、ロサンゼルスのリトル・トウキョウにある全米日系人博物館でしょう。常設展示では、移住を決意した一世から始まる日系人の体験が年代順に紹介されています。また、第二次世界大戦中に強制収容された歴史を踏まえて、収容先で暮らしたバラックの一部も移築されており、博物館にてその実物を見ることもできます。ロサンゼルスに行く機会がある方はぜひ立ち寄ってみたい場所です。

ちなみに、この全米日系人博物館のあるリトル・トウキョウでは、毎年夏になると、二世ウィーク・フェスティバルという祭りが開催されます。今年も8月9日から17日まで開催されますが、最終日に行われるパレードでは、太鼓をたたく団体や、盆踊りを踊る団体が登場したりと日系人社会に根付いた日本文化を見ることができます。日本で生まれ育った者の目から見ると、アメリカ的な要素も組み込まれていて文化の変容を感じたりもしますが、これもまた太平洋を越えた文化といえるでしょう。

## Cool Web Site

英語・英語圏文化専攻 教員  
前田 隆子

今回紹介するホームページは、“Activities for ESL Students” (<http://a4esl.org>)です。

特に Grammar Quizzes はおすすめです。様々なレベルやカテゴリーに分かれていますので文法が苦手な人も得意な人も挑戦できます。是非あなたの英文法力を試してみましょう。

インターネットアドレス：“Activities for ESL Students” <http://a4esl.org>

Kaleidoscope 第10号はいかがでしたか？ 皆さまのご意見・ご希望・ご質問など、お気づきの点を [maeda@caritas.ac.jp](mailto:maeda@caritas.ac.jp) までお寄せください。

2003年 7月10日発行

発行責任者：北川宣子

編集協力：東京工科大学大学院

メディア学研究科 渡邊賢悟

## カリタス女子短期大学

Caritas Junior College

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野 2-29-1

Tel:045-901-5133

Fax:045-901-5066

URL: <http://www.caritas.ac.jp/english>